#### 十年00文化凤发



十和村教育委员会

載されてもおりますが、十和 、最古の遺跡であることが明らかにされる等、十数ヶ所の遺跡を有している。 本村には、『十和 跡 縄文時代草創期 村史』、『十和 の豆粒文土器や長大な尖頭器が出土し、 村は埋蔵文化財の宝庫として知られ、中でも十 の民俗上・下』 が発刊されております。その 県内 では 中に 111 縄 文時 も掲 場

また れたこの文化 財があることを一般によく知られてないように思われます。先人が残し守ってこら 玉 有形文化財 文化財保護審議会のみなさんに『十和の文化財』を紹介してもらうべく執筆を の夫婦杉をはじめ村指定の天然記 の重要無形民俗文化 このほど立派 財を村民に広く観覧し文化を愛していただきたい。このような思いか も車 半の石仏 に完成をみました。 一財をはじめ県指定及び村指定の無形民俗文化財が沢山 等七例 のほか城跡も多い。そのほか県指定天然記念物 念物もある。 このように、多くの貴重な文化 ある。 0

十一世紀を目前 し時代を生きる私達に何かの感動を与えるものと思います。 にして文化発信社会の今日、歴史を回顧し先人の残した文化遺

書が文化 財に親 ていただきました文化財保護審議会委員の皆様に心から感謝 しみ、関心を寄せる一助となれば誠に幸いと存じます。

てしあげて、発刊にあたってのご挨拶といたします。

平成六年十月二十日

十和村教育長 谷 本 芳 清

とお

礼

伊勢踊り	小野花取踊りの歌(デハ唄)	小野花取踊り	五ツ鹿踊り	大道のコナラの大木	天神宮の高野槇三本	大道の五葉の松 平成15年9月16日 解除	宝珠寺の深山白槇	地吉大念仏踊り	0) 0	と与りた帚彡	幡多神楽
4	. 13	12		9	8	7	6	4	3	2	

目

次

フイゴ	鍛冶屋	山瀬の	里川の	河内の	盆行事	辻堂の	天日ハ	山瀬の	郷社星	古城の	大井川	古城の	里川の	八社神
祭り	の正月の祭	花祭り	伊勢踊り	オサバイサ	四万十川の	お茶屋上げ	幡宮秋季祭	山瀬の虫送り	神社の秋季	花取踊り	花取踊り	三番叟	盆踊り(こぼんおど	楽
	祀		# [ ] 	マ祭り	精霊迎え…		祀し		季祭祀			t ,	っぱ踊り)	
30	29	28	27	26	25	24	23	22	20	19	18	17	16	15

奈路遺跡	川口ホリキ遺跡	十川駄馬崎遺跡	手城址	奥大道番所跡	瀬-	庄屋屋敷	大雲寺の厨子と木版	村当時の	轟の石碑(板碑)		政末	茶堂	古城の水神祭	封言の終路上
¥7	46	44	42	41	40	39	38	37	36	35	3/1	33	32	Q

53 52 51

54

### |の重要無形民俗文化財幡 多神楽

平野清い 大神楽歌併掛合之詞や大神楽法式供次第記おおかであたまわせかけあいのことばほうしきをなえしだいきその後この人達によって一七の演目を作り、 などを作成して安政元年九月初 清記重政外神職四名が舞二品を習ばなれて年梼原の神職掛橋出羽正から 十和村幡多神楽保存会 神職掛橋出羽正から神職 めて奉 1

氏子らの願掛などによって舞い、所要時間以上、楽の方は三名以上必要とします。 は五時間ほどかかります。 く伝授され今日に至りました。 一円に回ったと伝えられ、各神社 でんじゅその後も書物を基本として変わることならした。 舞人は台本を基に練習をし、まいびとだいほんもとれんしょう ボデンの輪があります。 村内 の他、 他、幡多 所要時間

努力をしています。

くずれない



### 地吉の夫婦杉

所在地 地吉八幡宮境内

直幹三〇メートル 四・七五メートル周囲ハ・三五メートル 四・七五メートル

推定樹齢

七五〇年

神が宿った夫婦杉として保護されています。

よりそうように立つ二本の大杉を

なり、



### 古城の大念仏踊りこしょうだいねんぶつおど

であるといわれ、これにより極楽浄土を澄の弟子であった慈覚大師にはじまる唱法のの踊りは、遠く、我が国天台宗の開祖最この踊りは、遠く、我が国天台宗の開祖最にの踊りは、「神念仏」と「五方念仏」かは城部落山瀬追和組

ていますが、実は古城部落の祖霊を盆に迎エシ、念仏、クズシ念仏に続いて踊りが始エシ、念仏、クズシ念仏に続いて踊りが始まります。この踊りは施餓鬼供養と見られていますが、実は古城部落の祖霊を盆に迎ていますが、実は古城部落の祖霊を盆に迎える行事であると考えてよいと思います。



観相しようとしたものです。

### 地吉大念仏踊り

所在地 地吉部落

神念仏、 にはカズトリ、鉦、大太鼓、小太鼓を担っの家族が座し、僧侶は読経を続け、堂の前 た者と五人の少年が加わります。 の家族が座し 供養棚に面して、この日初盆を迎えた人々 捨念仏とがあります。大念仏は、堂の中のまでながっ 法質) 吉祥寺で演じられ、由来は(奈良三学寺伝きらしょうじょえん 地吉大念仏踊りは、新暦八月五日、じょしだいねんぶつ に記されています。念仏の順序は、 盆念仏、村座、大念仏、ケテン、ほんれんぶつをんどだいれんぶつ 堂の前

に五方飛びという芸能が一緒になっている

この念仏の特徴は、たち念仏の役者の他

本村だけになり、とても貴重な踊りです。

ことです。このような念仏踊りは、

県下で



ています。この間、太鼓も鉦もゆっくりと回っまわりを走り、とんではうずくまり三巡しまわりを走り、とんではうずくまり三巡し

二庭目からはさらに役者がふえて賑やかになり、四メートルほどの笹竹を束ねたものを持つ者、直径七〇センチもある大きな回りとんで行き、最後の庭では少年は竹を東ねたも同りとんで行き、最後の庭では少年は竹を東ねたもがに投げ捨てます。

型が多分に残されているようです。



## 宝珠寺の深山白槙

所在地 昭和宝珠寺

うです。



# 平成15年9月16日解除

### 大道の五葉の松

所有者 門脇菊義氏 かどわきぎくよし かどわきぎくよし 東大道に井田又

周囲 三・九メートル

地上三メートルで双幹推定樹齢 三〇〇年

す。



所在地 奥大道番所谷

(一) 三・三メートル 根元回り 三五〇年 推定樹齡

(三)三・五メートル 三三〇年 (二) 三・七メートル 三五〇年

辺の杉、檜とともに古木で、大樹です。へんすぎひのき 天神宮は、奥大道の氏神です。 境内の鎮守の森に現存する高野槙は、周けいだい ちんじゅ もり げんぞん こうやまき しゅう

はその数も年々減少の傾向にあり、村では、

「十和の木」に指定してその保護に努めてい

ます。

鎮守の森にふさわしく大木ですが高野槙

# 大道のコナラの大木

所在地 奥大道入谷

所有者 入谷組

地上一・一メートルで分幹 根元回り 分幹回り 五・七メートル ニ・ニメートル

推定樹齡 五〇〇年

樹にかん

二六・七メートル

中心とした諸祭礼などを共同なからしんとした諸祭礼などを共同 まりムラを作り、個人では成し得ない事業 とを知っていた祖先達は、お互いが寄り集 持っていました。不便でかつ不安の多いこ 信仰生活面でも同じ仲間という共通認識をしたこうせいかつめん 入谷集落開拓のころから住民の氏神様をいりたにしゅうらかいたく で行い、

をお互いが協力することで可能にしてきた



大計です。 中心的な場所として、山ノ神様の周囲中心的な場所として、山ノ神様の周囲



# 五ツ鹿踊り

十和村地吉部落

ている伊予文化の影響を受けた踊りです。 この踊りは地吉の八幡宮だけに伝えられ

哀愁をおびた舞です。 五ツの鹿がゆっくりとした歌に合わせ

一頭の雌鹿を他の四頭の雄鹿が尋ね求め

隊形は横列や円陣になったり変化に富みたいけい い合う様子を演じたものです。

の布をたらしカルサンをはき、紺色のシュ 東北地方の古代をしのぶ踊りです。 装衣は頭に鹿の面をつけ、前に赤白草色

す。

きます。秋の八幡宮大祭には必ず舞われま

ンを着てツヅミ太鼓をかかえ両手でたた



### 小野花取踊り

れ変わって変化に富み、見てもたいへん美明です。動きが激しく、小太刀大太刀が入この花取踊りはいつごろ始まったかは不 い踊りです。

シメを張り、中に入るように踊りながら切秋祭りに踊ります。御輿の帰る時四方に、」 一、一番太刀ななりなっ ります。デハ踊りに始まって 三、三ツクナミ 二番太刀 三、ほいほい 二、二番鎌の踊り

鼠つき

五、よのがけ

よつとび

まねき

犬の太刀

くるま

逆手



# 小野花取踊りの歌(デハ唄)

キモソメーズイーヌンウノツーマヤヨオギ チヨーンボイ。 ネコーエーテキイミーガヨオーソチイワコ オーボンオリィヤーハネンエーコーエ。 ヤァマトオリキードヤアアケズンボイ・ノ イーイヌンウノオヤーツウマガーキインヲ イヨーナムオイ・ココワーケーヨ



オイ。

スソノコギリデヒイケヤマワシータ。

#### 伊勢踊り

地域によって踊りや歌 十和村内各部落に行われていますが多少 い目的も違います。 の文句、 フシなどが

春祈祷や病人祈祷、 水神祭、 部落小宮の

祭典などに踊ります。

村西 鼓に合わせて両足を交互に踏み、そして て榊を両手で前に持つのが普通です。 出席者はできるだけ家長とし服装は一般的しゅっせきしゃ 「参り下向の目出度さよ。」と歩むのが十和 方法は中央に太鼓を置いて打ち円形になっ の方の部落での行い方です。また 歌太

です。

ています。

歌は(一)いれは、(二)

伊勢踊りとなっ



#### 八社神楽

十和村幡多神楽保存会

ようとしても身体が自由にならず、困って紀州の面商人が面を背負って三島坂を越えは、古老の伝説や三島神社々誌によると、 演舞されています。この神楽に使用する面ぇんぶ いっとようでは、再び四手村に立戻り由になった面商人は、再び四手村に立戻り 帰国 実情を語り、ある人家に奉納を委託してじつじょうかた 111 拝殿で舞います。二人はでん まであり、 もしろく舞います。 の中島の三島神社に祈願して、身体が自 木面一二面、小袖で 古老の伝説や三島神社々誌によると、 社神楽は十和村内八社の秋の大祭に したと伝えられています。演目は十番 ます。二人の掛合などがありお神職二人以上によって各神社の , 短刀一などが木箱

に納められています。



# 里川の盆踊り(こっぱ踊り)

毎年お盤には私たちの先祖の霊が帰って 来ます。里川では新暦八月一四日の夕がた から盆踊りを踊り、帰ってきた精霊たちと 一緒になって踊ります。ミノ・カサなどを 着た踊り子を見ることができます。その姿 は円形に並び、右まわりに進みます。明 ながら太鼓をたたきます。

構成されており、手の所作は体の内から外

こっぱ踊りは、三ツ拍子とこっぱとから

味は部落内の悪疫送りを表現しています。

手を巻き上げてくりかえします。

その意



### 古城の三番叟

所在地 古城部落本村組

たそうです。 古城部落本村組に伝承されています。 衣はままです。 これは現在古城とて保管されていました。 これは現在古城して保管されていました。 これは現在古城して保管されていました。 これは現在古城ともないが、 ましたの これは現在古城ともないが、 まで、 これは現在古城ともといるが、 これは現在古城ともといるが、 これは現在古城ともといるが、 これは現在古城ともといるが、 これは現在古城の産土神であったころからの慣習だったそうです。

たる。で、 えんで、これる時期は家の新築普請の祝いが 裏も多かったようで、そのほか病人の全快 最も多かったようで、そのほか病人の全快 した。史料によれば今から一七七年前頃から本村組で演じられていました。 でする。たから、一大歳などがあり、 でする。たかは、大歳などがあり、 でする。 でする。たかは、大歳などがあり、 でする。 でする。



### 大井川花取踊り

大井川花取踊りは小野花取踊りとよく似ています。

南無おいここあけえよ……」は同じ歌です。 たく同じであったといいます。しかし現在は少し違います。また踊る前歌の「やあたく同じであったといいます。しかし現在は少し違います。また踊る前歌の「やあ 元は明治三〇年代に小野より伝えられたといわれており、太刀踊り、鎌踊りはまっぱい。

(踊りの演目) 太刀手 鎌の手

、もどの太刀

かた切り

二、四つ切り 、二つ切り

四、 三、掛けて舞う 五、よろがけ 逆手

四、肩車

三、みつくなみ

六、一つつくなみ 七、米つき

ハ、鼠ころがし

この花踊りなどは秋の大祭に行います。 などがあります。



### 古城の花取踊り

不明です。この花取踊りがいつごろ始められたかは

い舞方であったと伝えられています。れ変わるという点です。古城の踊りも激し花取踊りの共通点は大人、子供が互いに入太刀踊り、小刀踊り、鎌踊りなど、村内

となります。一、巾切り二、場取りに始まり太刀踊り演目は次のとおりです。

ち、さかがま。

ち、六、さかがま。

ち、六、さかがま。

ち、六、さかがま。

ち、六、さかがま。

組、太鼓は長沢組と昔から決まっています。

最後に場引で終ります。

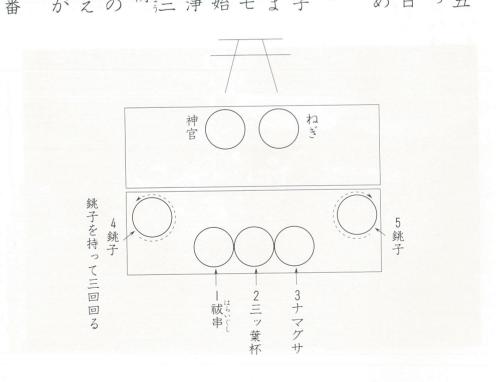
場取の踊りは本村



# 郷社星神社の秋季祭祀

日龍一 前 人の指揮により手話を使って行います。三めると三人共榊を口にくわえ、一番の清浄 その夜、三番は夜中に水迎えのため古城字 チをつきますが、 す。三番、 岩クスベ(星の落ちた所) ます。一般の当番は外部 7 ます。また、お祭の朝には に本殿内部の御霊や物品などをふきいます。祓戸で清められた五人は、籠っていましたが、今は三日籠りに ります。また、お祭の朝には神宮迎えの式がす。また、お祭の朝には神宮迎えの式が霊の前にカワラケに七、八個入れて供えっ霊の前にカワラケに七、八個入れて供える。 の二を平たくし、 〇月二八日 四番も宿 三番は二日前より宿ります。い当番は外部の掃除をします。 の祭祀では 迎えた水を入れ、蒸し始宿り、次の日の夜中にモ 残りは丸めます。 などをふき清め の井戸へ行きま ます。明朝 りになっ 、三日

番は祓串、二番は三ッ葉杯と酒、



御輿を十川下の神楽を舞い ります。 清浄人に杯を行 に入り、 区長関係者らによって祭の仕上の酒宴を つぎます。 ナ り、祭典の無事を祈って神官が全清浄人を祓 全員が座につくと二番杯を神官に るように 五番が内より外回りに三回 んかですめ 一枚を持って ます。 各区長 鎮の祭をして全行程を終ります。 シメ切りが 次に い敷きます。 そして八社神楽を舞っ いが座 翌く ネギに杯、 て鳥居 い杯を交わして帰ります。御旅所に運び祭典をします。い、御霊をうつした三台のが座につき、座付の酒宴を その 終わ は郡で三ケ所 ます。 人を被して 0 直 つって御輿して帰り 前 2 してはい で二人共右 番が神官を計 座付 迎え 四 輿から ます。 回っつ れの酒宴を終 の祭と 一音を祓 てから て酒 け 五 ŧ 御霊 祓 を 戸



清浄人の沐浴(四万十川・小貝瀬)

### 山瀬の虫送り

に指定されました。 ・ 古城部落の各組で行われていましたが、 ・ 古城部落の各組で行われていましたが、 ・ およれでいます。 ・ およれでは、なんでくぶんかど、 ・ およれでけれていましたが、 ・ に指定されました。

ています。虫送りの終りは組境の谷川に松 大事な時期に行うのは、害虫駆除に役立っ 大事な時期に行うのは、害虫駆除に役立っ ながこんで行きます。実際、稲作の ように飛びこんで行きます。実際、稲作の ように飛びこんで行きます。実際、稲作の ように飛びこんで行きます。実際、稲作の ように飛びこんで行きます。実際、稲作の は、近くなり、稲や作 が、たまうくとり、稲や作 が、たまうくとなり、稲や作 のよれる でいます。虫送りの終りは組境の谷川に松

明をあまして終ります。



ソンを唄いながら遊山をしました上にゴザをしき竹のハタと太遠そその当日し 回して酒盛りを一坐していた天日、 祭のひとつです。を高めたといわれています。 動されました。 その当日は てから角力が始まりま 八幡宮に 差し、ボンデンの神の力によ ボンデンをもら その間に奉納角力がにつくまでは宮唄のナ をしたそうです。その タと太鼓を持ちキ t=0 それ 現在地に移 を三回舟を 勝か角 村 対岸が 方残った わ ンを唄 を れ、 て地 日 その 後、 元安 根



## 辻堂のお茶屋上げ

た。

がはないでは、この辻堂で休みをどりました。

を通る旅人はこの辻堂で休みをどりました。

に県道が開設される大正二年まで、ここに県道が開設される大正二年まで、ここにはでは、川沿い世間は、川沿い

一日)は各家から当番の人がきて茶を沸かて毎日部落から当番の人がきて茶を沸かて着上げの日の七月二一日(現八月二一日)は各家から松明一コ、木ハタ二枚を持ってきて鉦(二つ)、太鼓(一つ)でなどである。 一日)は各家から松明一コ、木ハタ二枚を持ってきて鉦(二つ)、太鼓(一つ)でながってきて鉦(二つ)、太鼓(一つ)ではない。 は堂には弘法大師(石造座像)、子安地蔵尊(石造立像)、地蔵尊(石造立像)、地蔵尊(石造立像)、水ははとうかのん

す。



# 盆行事四万十川の精霊迎え

内部落では盆には先祖の霊が四万十川から内訳は春・秋の両彼岸と盆と正月です。河て来るものと考えられています。四回のて来るものと考えられています。四回のが成れています。四回の所を地河内部落

帰って来ると信じています。オショウライサマお迎えします」と唱え、持って来ると信じています」と唱え、持って大を点し、水まつりをします。それがすむ来た木地のお椀に水を汲んで松明と線香に火を点し、水まつりをします。それがすむ火を点し、水まつりをします。それがすむりでは一六日に再び四万十川からお帰りにすって来ると信じています。



# 河内のオサバイサマ祭り

所在地 河内部落

葉を持って行き、住職に墨の木版で押印し祭りの朝、当番が小野の願成寺にビワのてオサバイサマ祭りを行います。がんじょうじての部落内の田植えが終わると、田休みをとっ

と一緒に神、栗なども供えます。



### 里川の伊勢踊り

歌は大変複雑で日本各地が出てきます。 これに対して、一、節に東西南北と扇子と幣を持って四、手ぬぐい、五、佐渡、六、豊後、七、四、手ぬぐい、五、佐渡、六、豊後、七、四、手ぬぐい、五、佐渡、六、豊後、七、四、手ぬぐい、五、佐渡、六、豊後、七、中央の太鼓に合わせ円陣になって踊ります。 中央の太鼓に合わせ円陣になって川いれは、にの人もいます。



### 山瀬の花祭り

昭和五三年八月三一日、村無形民俗文化所在地 古城部落山瀬組

この花祭りは旧暦四月八日山瀬組財に指定されました。

によっ

て山 て行われます。 御釈迦様に甘茶をかけます。甘茶を飲むとの石像があり、その脇に花台を置して 稲作と深いかかわりをもっています。山頂 の花祭りは、シツケツツジなどを飾すため 夏 での花祭りは、 昼すぎ住人が茶堂に集まり花台に花を飾っかざ の間無病息災で暮らせるといいます。こ に登ります。山頂の祭場には千手観音 かが 全国では その脇に花台を置いて 山 瀬 の花祭りがた

だひとつ残っています。



# 鍛冶屋の正月の祭祀

まず二〇センチぐらいに切った萩木の先に フサをつけ元を四ッに割ってモチ大根を二 個ずつ付け、 ソ汁は五ッ品として作ります。野菜のアエ 備します。二〇センチぐらいの桶にユズリ 葉を星の形に五枚入れ、その上にモチを入 れ、「イレコ」の供物を作り二日の朝に供え ます。打初めの品は刀、長刀、くわ形、 の鍵、鎌などを作り供えます。その後オカ ンシ米本膳などを、木火土金水の神 え、男達は鍛冶屋で供物の朝食を頂きます。 鍛 この時の供物は男性によって作られ、 治屋の打初めは正月二日朝早く行いま 魚、酢物、ミソ汁、飯などを元旦に準 十川 本膳の前におきます。またこ 芝鍛冶屋両家 一順に供



#### フィゴ祭り

出版的 はなりません。 十川 芝鍛冶屋両家 十川 芝鍛冶屋両家

昔は近所の人を呼んで夜、酒宴をしを供えます。 おんぽの外にシメを張り、酒、モチなどを焼えます。

一一月八日に行っています。日に行っていましたが、現在は新暦このフイゴ祭りは、昔は旧一一月八から神様を迎えて仕事をします。翌朝シメを鍛冶屋の中に張り変えて



## 地吉の綾踊り

昭和五三年八月三一日、 所在地 地吉部落民俗保存会 村無形民俗文化

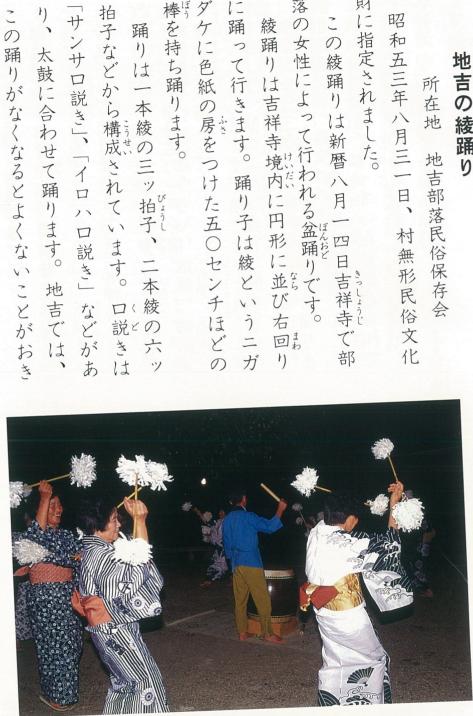
財に指定されました。 落の女性によって行われる盆踊りです。 に踊って行きます。踊り子は綾というニガ ダケに色紙の房をつけた五○センチほどの 棒を持ち踊ります。 この綾踊りは新暦八月一四日吉祥寺で部 綾踊りは吉祥寺境内に円形に並び右回り

り、太鼓に合わせて踊ります。地吉では、

一サンサロ説き」、「イロハロ説き」などがあ

りは一本綾の三ッ拍子、二本綾の六ッ

るという言い伝えがあります。



## 古城の水神祭

所在地 古城部落下組

に指定されました。昭和五八年四月一日、村無形民俗文化財

広います。下組一六戸が三戸ごとの当番とています。下組一六戸が三戸ごとの当番との座敷には高さ二メーートルほどの棚をの座敷には高さ二メーートルほどの棚をの座敷には高さ二メーートルほどの当番とのがでこしらえます。 相には一升桝に米を置り、幣を立てます。

水神淵

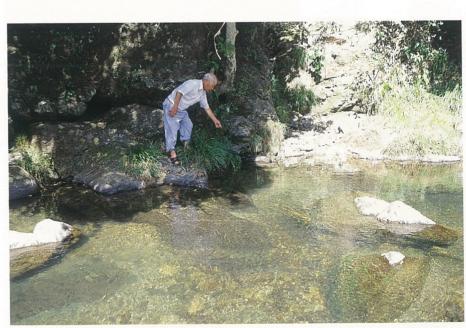
0

水脈に水を求めてきたことによる

ます。水神祭の由来は吉良兵衛が旱天に、。昔は水神淵で行っていたど伝えられて

。 直会宴がすむと棚を川に運んで流しま神職の祈念に続いてお伊勢踊りを踊りま

と言われています。



所在地 古城山瀬組

山瀬のお茶堂は、昭和四八年一〇月一日に 村内、各集落には、茶堂が一四ヶ堂あり、

村指定文化財に指定されました。 吹き通しで、間口二間、奥行二間半となっ 建造物は、正面と左右両面に壁がなく、

などの接待をしていましたが、現在では行 昔は通行人にお茶やきび、漬物、 梅漬け

われていません。

ています。

を呼び区長さんや有志が参加して念仏を唱しかし旧暦の七月二一日には、法印さん

# 旧名本家の藩政末期の襖一〇枚

古城の林忠男氏家に所有していたものを、これが、はやしただち、けれる。 十和村教育委員会

らゆずり受けたものです。十和村史編纂事業のひとつとして、林家か古城の林忠男氏家に所有していたものを、

帯刀をゆるされていました。林家は藩政期長く名本役を務め、苗字、林家は藩政期長く名本役を務め、苗字、

重ね貼られており、一枚の襖から約五〇〇裏貼りには、藩政期の名本役の重要書類が襖の表貼りは、明治初期のものですが、

ます。貼られている和紙からは、「御山控帳」件の書類が検出されるものと期待されてい

いた、書類がたくさん出てくるものと思わ「手鏡」「徴税令書」などの大切なことを書

れます。



襖の裏貼り

## 事の石仏(地蔵座像) 年代永正八年 にそうさそう

の丸い船型光背に地蔵菩薩が合掌したが在地昭和(轟組)

形をとる石仏です。

頭

ンチ、下部でハセンチです。
と体の高さ二ハセンチ、厚さは上部五セ

センチ、胴部幅一〇・五センチ、下部の幅地蔵の高さ二一センチ、顔部の幅四・五

を供養して祀り始められたものと考えられいできょうによったが地蔵菩薩は立像でなく座像で、地蔵の頭地蔵菩薩は立像でなく座像で、地蔵の頭ではまったといます。



## 轟の石碑(板碑)

所在地昭和(轟組)

形は三角形状をした平たく板状になって

六文字が刻みこまれています。 をの下の中央部に縦に「南無阿弥陀仏」の をの下の中央部に縦に「南無阿弥陀仏」の をではしてではありません。 をではまり大きいものではありません。 が大れられ、 が文れられ、 が文字が刻みこまれています。

この板碑を造立した紀年を見れば「永正プラウオタンでは

から四七○年余り前のことです。
永正七年といえば西暦一五一○年で、今七年」と刻まれています。

(注)梵字……古代インドの文語



# 旧村当時の議会の関係書類

現在も十和村議会事務局に大切に保管されたことにはそいでは、議会が開設されその模様を、といても、議会が開設されその模様を、といても、議会が開設された議会議事録が、書記官によって、筆記された議会議事録が、 はいばればいい 一年 日本帝国憲法が明治二三年に発布され、 はいばればいい 一年 日本帝国憲法が明治二三年に発布され、 はいばればいい 一年 日本帝国憲法が明治二三年に発布され、 はいばればいい 一年 日本帝国憲法が明治二三年に発布され、 はいばればいる。

よって綿密に綴られています。までの両村の歩みや、動勢が、毛筆書きに月一日に両村が合併して新生十和村となる旧両村の議事録を見れば、昭和三二年八ています。



## 大雲寺の厨子と木板だいうんじょりとすしました。



# 旧庄屋屋敷(中平家)

長禄年間に始まり、江戸末期なようろく 岐守重熊を開祖とし、 て明治に至る一七年間、三代にわたり大井(一八五二年)から中平道助重清を初代とし が一代で財を成し、 れていることから大井川城の城主の館 屋敷は、この地が「土居」という字名で呼ば 川と四手両村の庄屋を務めていました。この 屋 現中平家は中世における四手城主中平隠 敷は中平家の当主行雄氏の 禄年間に始まり、江戸末期の嘉永五年れれでの中平家の台頭は、室町中期の に建てられたものと思われます。 円に輩出しています。 所在地 大井川部落 明治中頃から順次増改主行雄氏の祖父茂久治氏 四手村字中平から 現在 0 跡 0

築ちく

たものです。



## 広瀬遺跡

この石錘を使って鮎漁をしました。

特に本

遺跡が栄えたのは縄文中期です。

り呪術に使用していたものと考えます。

広瀬遺跡で注目することは、石錘です。

(西平) 土器であります。

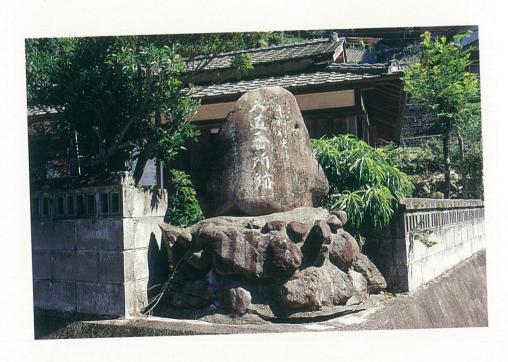
また、発掘物の中には土偶が出土してお



## 一番所跡

御番人役事等一 川、 がか がい たど 野川、 大型 野がわ 大型 建てら 屋や 斗と芝藤 残されています。 道 生見まれる。 守関罷免 地に「 の奥大道番所谷にあ 7 、富母里村、 パーンーをした。また糀ヶ瀬林、明治となり士族(家禄三石七町」の後、代々勤め上げ七代目のメキキュ ます。 大道 となりまし と 日藩御用 番 これ 所 跡 国 日吉村方面 か 境 御おたの と刻ん 元の尾はかり ります。 留山 が保 んだ石碑がって元番所 を越えず 0 護 えたでく 7 林

目



## 兀 し 一手城址

地 の状況が新 在地 標高一六〇米の山頂で雑木にひょうこう

昭和字仲又山

土

遺い構え の状況

四

段丘七切堀だんきゅうでいます。

五

土とるい (□型のもの) ーが 縦をほり

り立った山林で、麓を炎谷がい立った山林で、麓を炎谷が あります。城址の北と東は切

考

察

城址の中心より東南約二〇〇

流れています。

・ロメートル程東の三島中州ますが、これは、約一、六

南側

が郷社三島神社となって

トル、

最南端の

の切堀

0

にあっ

た同神社が、

明治二三

丰



伝え城承ま

年の大洪水によって流失したため、現在地に再建されたもので、それ 以前はこの山は出城跡ではなかったかと考えられます。三島神社鎮守ない。 地が恐らく中平氏の土居のあった所だろうと思われます。 森の真下の約一・五ヘクタールの土地が、 昭和字中平です。この平

中平隠岐守重熊なかひらおきのかみしげくま

をみると、「元久元年、福井主善、四手村住人中平重熊嫡子福井主善 ていた豪族であったと言われています。小野部落の八坂神社にある棟札 城主中平重熊は、四手村、大井川村、野々川村、その他小村に武威を張っ 養子同重行勧請」とありますので、仮りにその嫡子重行が十五才から二ようし、しばきなどよう 守重熊は、すでに四手に栄砦し、およそ四手、大井川、野々川の三ヵ村 寿永年間となり、源頼朝が没して五年目になります。その頃、中平隠岐じゅえい 十才までに、養子に行ったと考えて、その時代にさかのぼると、文治、 を中心とした覇者となっていたのでありましょう。

## + ]]] 駄だ 場ば 崎さ 遺い 砂せき

在地 十川字駄場崎

昭

和

五七年(一九八二)から

現

在

(平

発掘調査が成六年・ 発掘の結果、縄文時代草創期から後期トルの河岸段丘状に位置します。 りがんだんきゅうじょう い ち は ます の あがんだんきゅうじょう い ち は 東西一五○メーートル、南北七○メー にいたる数多くの石器、土器片が出土し、 遺 」跡は四万十川中流域の十川 査が行われました。 ・一九九四)に至るまで計六 字 駄 回 場

集石炉四基(高しゅうせきろよんき

知県初)、縄文時代草創期

から早期に

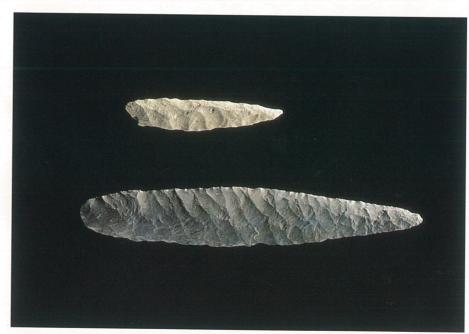
九・二センチ、

ンチ、最大幅三・三センチ、かけての大形の尖頭器(全長

の尖頭器

注目を浴びています。特に野外調理(バー古代を探るうえで大変貴重な遺跡として

ベキュー用の炉)に使用したとみられる



上はサヌカイト石、下は流紋岩の尖頭器(9,000年前)

最大厚一・〇センチ、高知県初)は石質は流紋岩で両面より丁寧な押圧剥離により調整を行っています。高知県下では、り調整を行っています。高知県下では、カイト製の尖頭器(全長ハ・ハセンチ、最大幅一・九センチ、厚さーセンチ、中最古の土器の豆粒文土器が発見されたを最古の土器の豆粒文土器が発見されたため平成二年旧石器時代までには至りませんであるために発掘調査を実施したが旧石器時代までには至りませんましたが旧石器時代までには至りませんましたが旧石器時代までには至りませんましたが旧石器時代までには至りません

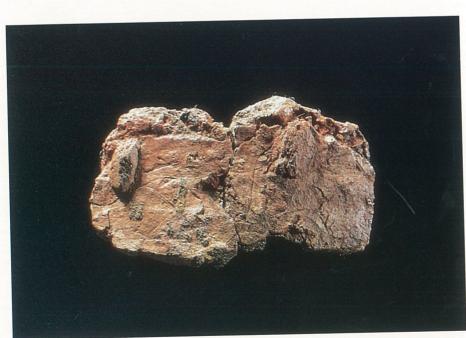
製作跡の確認ができました。

平成五

・六年に実施し

た学術調査では

の石器剥片がみられることから石器



豆粒文土器(12,000年前)

## JII ロホリキ

れました。 土器片、石鏃などの石器、 耳飾りが出土さ

遺跡の遠景 — 46 —

深針土器 (縄文後期)

おりません。

建な備び合う 黒きた。曜か 世 孔言 茶なで 生 石製品 ま 曜石さ 奈 時 れらはすべて中 • これら 路 した。 事 跡 近 世世 です。 伴 遺い 0 元、石鏃バ コアフレィ また平、昭 跡き所 0 1 遺物 発 磨製石 は 0 在 調 掘 縄は地 成三 文 40 調 和 查 時だ大代だ井 遺、查 出土し 六 結果 世 1 剣 ク、 構うが 年 0 ・美濃の 行 と中 か • 度 111 1= 遺 スには公営住宅 ・六二年 圃場整 ・六二年 圃場整 ・六二年 圃場整 ・六二年 圃場整 磨製石剣、有ませいせいけんゆう わ 7 県下 構に n 文 ますが 縄 時代 でも 系ん。 文 出 0 かき か 初 天で中 7 目世世 弥 出



有孔石製品



天目茶碗



磨製石剣



輸入陶磁の染付碗

# コノ城址(別名 竜巳城址)

土地の状況 標高一四〇メートルの山頂で土地の状況 段丘 七(内半円形のもの六)現在檜林となっています。現在檜林となっています。ではなったがます。ではなったが、できょうだんきょうでんきょうでんきょう かあります。

れはシロゴエと呼ばれる背後 砦は各段丘がしっかりと残っ トルあり、その北になお五本 ています。 堀を巡らしていますが、こ からの城壁の高さは 硬質の山を利用したこの城 段丘 があります。 城 一の下は 址 0 北側 東と南 メー 0 切



城 主

伝

承

不明

村史の「古城址」の項に次のようなことが記されています。

るが、次に示すように正確に城のあったことを示すものがある。 「上山郷の地検帳」にはこうした城の時代の終った時点での記録であ 抽記

してみよう。

同し(神田)ノ上城の廻 同 (十河内川口村)

同し(上山惣吉良)上地

同し(かざ)扣

、壱反卅代出壱反四十二代四分 下山畠 同上山分

同し上地 与二郎ゐ

同しノ上シロ

一、四十代 中ヤシキ同 分

ここでは「城ノ廻」、「シロ」とあって、中世の城があったことを明記 している。検地の時点では、すでに城ではなく与二良という約五反の

— 49 —

の上田があり、また二反六代の上田の神田および寺院もある。 田畑屋敷を持つ農民の住所になっているが、その付近には一町三二代

			2	の他	の城	跡		
城區	业 名	段丘	土塁	掘切	竪堀	山頂平たん部のみ	標高	所在地
黒	)1]		7 7				2 6 0	黒川 字 城ノ森
大井	川東	5		3			2 2 0	大井川 字九才名
大	井川	3		2			1 6 0	大井川森ノ駄馬
ハ	野	6	2	4			2 0 7	小野字與セケ名
)1]	津	L also						小野字城ノ郡
横	臼	4	- 1				2 5 0	十川 1190-6
,É			7		33 15	I	3 4 0	古城字コジロ
地	吉	4			机化十	Utem	美非难	地吉 1313-2

## 十和村埋蔵文化財包蔵地

番号	指定別	種 別	名 称	時代	備	考
1	- Tar 1	城 跡	黒 川 城 跡	室町		
2		//	南四手城跡	"		
3	村指定	11	四手城跡	//		
4			富 賀 城 跡	11		
5		集落跡	奈 路 遺 跡	縄•室		
6		城 跡	大井川東城跡	室町		
7		//	大井川城跡	11		
8		11	宮 添 城 跡	11		
9		11	久保川城跡	11		-
10		散布地	琴平の下遺跡	縄文		
11		//	小 野 遺 跡	11		
12		//	曽我の森遺跡	縄•室		
13		城 跡	小 野 城 跡	室町		
14	*:	//	川津城跡	11		
15		//	コノ城跡	11		- *
16	村指定	集落跡	駄馬崎遺跡	縄文		
17	~ - 1	散布地	川口ホリキ遺跡	11		
18	X-14x-	"	川口新階遺跡	11		
19	村指定		広 瀬 遺 跡	11		
20		城 跡	鳥 城 跡	室町		6
21		"	兵部ケ城跡	11		- *··
22		散布地	三島遺跡	縄文		*,
23		"	轟 遺 跡	縄•室		
24		城 跡	野々川城跡	室町		
25		散布地	曾 利 遺 跡	縄文		**
26		"	松原遺跡	縄•室		*
27		"	くぐつけ遺跡	縄文		
28		"	河内遺跡	縄•室		
29		"	久保川東遺跡	室町		
30		城 跡	奥大道城跡	"		
31		"	横臼城跡	"		
32		散布地	今 成 遺 跡	縄•室		
33		城 跡	地吉城跡	室町		
34		散布地	上広瀬遺跡	縄文		

## 牛鬼の面造師

所在地 古城部落森野新一氏

初代森野貞五郎氏、二代目森野新一氏、三月一日生まれ、七七歳)が選定保存技術の文化財指定になりました。
昭和五三年七月二〇日、村内ではただ一昭和五三年七月二〇日、村内ではただ一

三代目森野芳一氏。

1 為な鬼け をどり全部を和紙で完成しました。 面 の修繕を依頼され、父貞五郎と二人で手が昭和一五・六年頃部落氏神八幡宮の牛鬼 も強く、 考えついて和紙で製作することになりまの面は土で作られ傷みがはげしく、そのたことが発売とれま は軽く、 たことが発端となりました。 柿のシブで仕 今では村内外 上げ ているため 和 紙 虫 0

くあります。



## 文化財•史跡•天然記念物一覧表

## 県指定天然記念物

番号	名	称	<b>M</b> *	指定年月日	指定団体	住 所	本頁
1	地吉の夫婦杉		il is	S40. 6. 1	地吉八幡宮	十和村地吉	2

### 村指定天然記念物

番号	名称	指定年月日	指定団体	住 所	本頁
1	宝珠寺の深山白槙	S47, 10. 1	昭和部落	十和村昭和	6
2	大道の五葉の松	S53. 8. 31	個人	十和村大道	7
3	天神宮の槙三本とその周辺	S53. 8. 31	天神宮	十和村大道	8
4	大道のコナラの大木	S53. 8. 31	入谷組	十和村大道	9

## 国指定文化財

番号	指 定 例	名 称	指定年月日	指定団体	住 所	本頁
1	無形民俗文化財	幡多神楽	S55. 1. 28	幡多神楽保存会	十和村久保川	T

## 県指定文化財

番号	指定例	名称	指定年月日	指定団体	住 所	本頁
1	無形民俗文化財	五方念仏踊り	S54. 3. 26	古城部落	十和村古城	3
2	無形民俗文化財	大念仏踊り	S54. 3. 26	地吉部落民俗保存会	十和村地吉	4

### 村指定文化財

番号	指 定 例	名 称	指定年月日	指定団体	住 所	本頁
1	無形民俗文化財	五ツ鹿踊り	S47. 10. 1	地吉部落民俗保存会	十和村地吉	11
2	無形民俗文化財	小野の花取り踊り	S47. 10. 1	小野部落	十和村小野	12
3	無形民俗文化財	伊勢踊り	S47. 10. 1	浦越部落	十和村浦越	14
4	無形民俗文化財	八社神楽	S48. 10. 1	幡多神楽保存会	十和村久保川	15
5	無形民俗文化財	里川の盆踊(こっぱ踊り)	S48. 10. 1	里川部落	十和村里川	16
6	無形民俗文化財	古城の三番叟	S48. 10. 1	三番叟保存会	十和村古城	17
7	無形民俗文化財	大井川の花取り踊り	S48. 10. 1	大井川部落	十和村大井川	18

			60 100	泰 和 【		
番-		名 称	指定年月日	指定団体	住 所	本員
8	無形民俗文化財	古城の花取り踊り	S47. 10.	1 古城部落	十和村古城	
9	無形民俗文化財	郷社星神社の秋季祭祀	S53. 8. 3	1 十川部落	十和村十川	
10	無形民俗文化財	山瀬の虫送り	S53, 8, 3	1 古城山瀬組	十和村古城	
11	無形民俗文化財	天日八幡宮秋季祭祀	S53. 8, 3	1 小野部落	十和村小野	
12	無形民俗文化財	辻堂のお茶屋上げ	S53. 8, 3	1 河内部落	十和村河内	
13	無形民俗文化財	盆行事四万十川の精霊迎え	S53. 8. 31	河内部落	十和村河内	
14	無形民俗文化財	河内のオサバイサマ祭			十和村河内	25
15	無形民俗文化財	里川の伊勢踊り、コ踊り	S53. 8. 31	1111-1176		26
16	無形民俗文化財	山瀬の花祭り	S53. 8. 31	A	十和村里川	27
17.	無形民俗文化財	鍛冶の正月祭祀	S53. 8, 31	Total / PKI Z	100	28
18	無形民俗文化財	ふいご祭り	S53. 8, 31		十和村十川	29
19	無形民俗文化財	地吉の綾踊り	S53. 8, 31	41 13	十和村十川	30
20	無形民俗文化財	古城の水神祭	S58. 4. 1	地吉部落民俗保有古城下組	2 2	31
21	有形民俗文化財	山瀬のお茶堂(含、ナギの木)	S48. 10. 1	A 79	十和村古城	32
22	有形文化財	旧名本家の藩政末期の襖 10 枚	0.55	古城山瀬組	十和村古城	33
23	有形文化財	轟の石仏		十和村教育委員会	十和村十川	34
24	有形文化財	轟の板碑	S60. 11. 14	昭和轟組	十和村昭和	35
-	有形文化財		S60. 11. 14	昭和轟組	十和村昭和	36
-	有形文化財	旧村当時の議会の関係書類	S58. 6. 4	十和村議会	十和村十川	37
		大雲寺の厨子・木版	S63, 12. 1	久保川部落	十和村久保川	38
+	有形文化財	庄屋屋敷 (中平家)	H 5. 1. 20	十和村教育委員会	十和村大井川	39
		広瀬遺跡	S48. 10. 1	個人	十和村広瀬	40
	. 246	大道の番所跡	S48. 10. 1	個人	十和村大道	41
+	史 跡	四手城跡	S48. 10. 1	個人	十和村昭和	42
-	100	駄場崎遺跡	S57. 4. 1	個人	十和村十川	44
2 3	選定保存技術	牛鬼の面造り	S53. 7. 20	個人	十和村古城	53

もたくさん入りこんできました。 心とした南予地方の文化の伝搬を強く受け、また四万十川河口文化、高吾地方文化 南予地方の文化の影響を受けていました。中世、近世、近代を通じて、宇和島を中 十和村は、特異な文化の形成をしている地域です。縄文時代には東九州、瀬戸内、

を代表する芸能は「大念仏踊り」です。 中世のなごりを残し、近世後期になって民間信仰に芸能が結びつきました。十和村 時代のあけぼのは、四万十川流域の十川駄場崎にはじまります。また祭祀は多分に 七四件にものぼります。その多くは縄文遺跡、中世古城址、祭祀、芸能です。 十和村の文化財は、国、県、村指定の文化財が四七件、指定外文化財を含めると 縄文

りますが、ここに本書の上梓をみることができました。 をまどめたものです。執筆は五人の文化財保護審議会委員により行われ稚拙ではあ 『十和の文化財』は、四万十川中流域を代表する十和村の有形無形の文化 九四件

りました。心から感謝とお礼を申し上げます。 調査にあたっては区長さん、氏子総代さん、多くの村民の皆さんのご協力を賜わ

# 「十和の文化財」編集委員

文化財保護審議会委員 (副委員長) (十 (大 昭昭  $\widehat{III}$ 111 和) 道) 口) 芝 岡 宗 竹 本 海 内 菊 邦 清 男 雄 弘 治

(委員長) (大井川)

中

平

大

世

平成六年十一月一日 初版第一刷発行

十和の文化財

印刷所 ひまわり印刷発行者 十和村教育委員会